

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400010		
法人名	社会福祉法人 手稲ロータス会		
事業所名	グループホーム 手稲ゆうゆう かえで		
所在地	札幌市手稲区稲穂5条2丁目6番5号		
自己評価作成日	平成28年4月28日	評価結果市町村受理日	平成28年6月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0190400010-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>① 月1回の全体での外出行事や、月3回の個別外出を支援している。</p> <p>② レクリエーション委員会を立ち上げ、入居者様に応じたプログラム提供を図り、日常生活でのリハビリの拡大に努めている。</p> <p>③ 社会福祉法人として、併設の特別養護老人ホーム、老人保健施設と24時間体制で医療連携をしている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年5月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム手稲ゆうゆう」は、自然環境の豊かな高台に建てており、社会福祉法人ロータス福祉会が経営する特別養護老人ホームの3階に2ユニットのホームがある。同一法人の老人保健施設とは廊下でつながっている。法人施設間の医療連携や防災の協力体制を整え、本人・家族が安心できる環境を提供している。地域との関わりでは、小学生の総合学習訪問、高校生のプラスバンド慰問、福祉専門学校の学生や地域ボランティアなど、主に来訪を中心に住民と交流している。今年度は生活リハビリの拡大を目標に、習字や手芸など定期的な訪問ボランティアによる作品作りに取り組み、また「ふみの日」を設けて利用者が暑中見舞状や年賀状を家族、知人に送ることで馴染みの関係作りを考えている。管理者は年度の事業計画を基に職員の育成を重視し、法人のグループホーム運営会議で話し合い、内外の研修を職員が受講できるように熱心に取り組んでいる。職員アンケートや意見なども会議に上げて働きやすい環境に配慮している。利用者の自立した暮らしを家族と共に支えるため、運営推進会議の議題を工夫して内容の充実化を図るとともに、家族アンケートを継続して行い、些細な想いをも職員間で共有できるように考えている。年間を通して外出機会が多いが、更に屋外での外気浴を考えている。利用者とおやつを作るなど食事の楽しみを取り入れており、職員は日々笑顔で利用者に接しながら個々の意向に沿って支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人共通の運営理念とホーム独自の理念をエレベーターホールや各ユニット、職員室に掲示し、各職員が、理念を把握しそれを実践に繋げるよう努めている。	事業所理念の4番目に地域との関わりを明記し、住民の来訪を受け入れて交流している。地域の一員として町内会への加入を相談したが、難しい状況にある。職員は理念の内容を理解し日々のケアにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の夏祭りでは、大々的に地域の方への参加を呼びかけ、地域の方々とのふれあいに繋がっている。また、近隣の小学生や、高校生、ボランティアの慰問や、手稲区のふれあいフェスティバルの見学も受け入れている。	法人夏祭りでは、利用者の負担を考えて今回は事業所内で行い、たこ焼きの店など全員で一緒に楽しめるように工夫している。学生も手伝いで参加している。定期的に地域のボランティアが来訪し、利用者は習字や手芸の作品を作りホーム内に飾っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の方に日々行っている支援の報告を行い認知症への理解をしてもらっている。また、法人全体として、包括支援センターが中心となり、認知症サポーター研修をH27年に開催し、予防への取り組みを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事や、事業計画・報告、事故及びヒヤリハットの内容について公表している。行事報告については、取組がわかりやすいように、写真を使用することで評価しやすいよう工夫しサービスの向上に努めている	災害対策で町内会との協力体制について話題にしたが、町内会未加入とのことで具体的な話し合いにはならなかった。町内会の事情もあり、地域代表として連合町内会長が参加している。会議は主に報告が中心で、家族は代表参加になっている。	会議に家族の関心や参加が得られるように、ミニ勉強会を検討したいとのことなので、今後の取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	手稲区生活保護課職員とは、日頃から連携をとり協力関係を築いている。市や区の管理者連絡会議に参加して、情報を共有している。また、市のアンケート調査に回答し実情を報告している。	市役所の担当者には書類の確認やマイナンバーの取り扱いなど、その都度、出向いたりメールでのやり取りで相談している。市・区のグループホーム管理者連絡会で行った事例検討の内容を職員に伝達し、ケアに役立てている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルがあり、職員は指定基準を理解し、身体拘束をしないケアを実践している。法人全体での研修をH26年10月に実施し、身体拘束廃止への知識、理解を深めている。	法人に設置してある「身体拘束廃止委員会」の研修会に参加し、拘束のないケアを実践している。全体会議でグレーゾーンの存在について確認しているが、「禁止の具体的な行為」11項目につなげて、更に意識して理解を深めたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を北海道高齢者虐待防止推進研修会に参加させ、職員全体に周知し、防止を図る為に、身体拘束委員会が中心に年1回内部研修を行っている。また、職員室に虐待防止についてのリーフレット等を掲示して虐待へのより深い、知識の向上に努めている。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、利用も相談を受けた事例はないが、制度についての理解を深め、必要時活用し支援できるよう努めて行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と共に重要事項も一緒に時間をかけて、説明し、事業所のケアに関する考え方や取組等の説明も行っている。また、入居してからも不明な点がないか確認させてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見や要望を表す機会を設けている。ご家族様へのアンケートを実施し、意見や、不安を探り、サービスの質の向上に努めている。	今後も家族アンケートを行い、項目の検討や回収方法を工夫して率直な意見を得てサービスに活かしたいと考えている。家族の些細な想いをも職員間で共有できるように個別の記録化を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、意見や提案を聞く機会としている。また、随時にユニット会議を開催して職員の要望や意見を聞き反映できるよう努めている。また、代表者と管理者、事務長による運営会議が月1回実施しており、職員の意見や提案等を反映する場となっている。	職員アンケートを行い、グループホーム運営会議に上げて、職員の意向が反映されている。職員から議題がある時は、随時ユニット会議で意見を交換し解決につなげている。母体施設長との個人面談があり、管理者は状況に応じて職員と個別に話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に代表者との運営会議があり、その場を通じて、運営等に係る情報を報告している。職員の仕事ぶりや、勤務状況を把握して、給与・賞与に反映している。外部研修は、勤務扱とし、費用も法人が負担して向上心がもてるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で外部研修参加予定表を計画し、実施している。職員一人ひとりに合わせた内容の研修に参加し、内部研修時に、他の職員に研修内容を伝達している。平成27年度は、各テーマに沿った問題集を配布し、家庭学習の一環とした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区で行われる連絡会に参加し、悩みや事故対応等について意見交換、認知症の事例検討を行い、ケアに活かしている。また、近隣のグループホームを見学したり、管理者同志の交流を通じてサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と計画作成者が面談を行い、御本人様の状況を理解するよう努めている。全職員が入居前の利用者様の生活状況を把握できるような情報を周知して、御本人様の不安を軽減し、早くに信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談時、グループホーム見学時等、利用開始前には、管理者と計画作成担当者がご家族として困っていることや要望等、気軽に相談できる環境づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様や、御家族様の思いや状況を確認し、改善に向けた支援を行っている。おもに、病気に関することが多く、歯科往診や、訪問リハビリ、訪問診療への変更等の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般を話し合いながら、共に行うように心がけている。調理では天ぷらの揚げ方、味付けなどアドバイスを受けながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に通院介助・買い物など家族の協力が必要なことは、納得してもらっている。日々の様子(行事・レクリエーション、体調)、本人の思いを家族へ、共に考え、協力し合い、暮らしを共に支えている。行事には、必ず参加されるご家族がいる反面、家族訪問が遠のいている入居者様もおられる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されてからも地域の方がデイサービスに来ている時には、会えるようにしている。入居者様の同級生が遠方より来訪されたことで、良い刺激となり、両者にとって生きる活力となり、「また来るからね。元氣頑張ろう」と再会の約束をされている。	入居後も馴染みの関係が継続できるように支援し、定期的に親しい人が来訪している。家族と外食や温泉に出かける方もいる。今年度は「ふみの日」を設け、全利用者が暑中見舞状や年賀状を家族や知人に送る支援を考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の状態によって気の合う方を把握し、居間や食堂の座る場所を考慮して和やかな関係が築けるようにしているが、相性・性格・その日の精神状態により、難しさを感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入所となり、退去となられた際、施設へ情報提供を行い、退去後も本人様の様子を気にかけて、いつでも連絡をいただければ、相談に応じることが出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表現の少ない方も含めて、入居者様には、それぞれ思いや希望がある事の認識のもとに把握する努力をし、カンファレンス・職員会議で情報交換をしている。	表情や普段と違う動作などから、想いを探って職員間で検討している。利用者担当職員は新しい情報を追記してセンター方式のアセスメントと、プランに沿ったチェック表を1年ごとに更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、御家族様に依頼してセンター方式に情報を記入してもらっている。本人との会話の中で、今までの暮らしについて把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとり担当の職員を配置して、心身の状態の把握に努めると共に、職員が気づいたちょっとしたことを職員同士、情報共有するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、概ね3か月に1度見直している。ご家族様の要望、以前に利用していた介護サービス職員、医師、リハビリ担当者からの話をもとに、職員でアイデアを出し合い、介護計画を作成している。	担当職員のモニタリングを基にカンファレンスで確認し、介護計画を3か月ごとに更新している。日々の介護記録は計画に沿い、色を変えてわかり易く記載している。更にサービス内容で普段と違う変化なども分かるような記載方法を考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、記録の重要性を認識しており、朝・夕の申し送りやノートで情報を共有し、状態にあった介護に努めている。医療、ケアプランと色を変えて記録することで、見やすくし、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設があることで、医務との24時間連携、日曜日のデイサービスの浴室使用、慰問の催し物・出張買い物サービスへ参加するなど、事業所の持つ機能を生かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の習字ボランティア、2週に1回の地域の方のボランティアを受け入れている。継続し、ボランティア募集中である。地域の実情に詳しい、運営推進会議のメンバーの助言を生かすように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医は、継続。又、入居者様・御家族様の变化に応じて医師と連携をとって、往診・訪問診療など適切な医療が受けられるようにしている。	かかりつけ医や専門的な受診は家族が対応し、必要な時は主治医への医療情報を家族に渡している。緊急時や家族の事情に応じて職員が同行することもある。利用者の状態から個別で訪問診療を受けている方もいる。	

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師によって、週1回以上健康チェックをして医療連携を図り、医療的な部分の相談をし、助言をもらっている。 個々に訪問診療を受けている入居者様に体調の変化があった際は、訪問看護婦に連絡・相談し適切な対応が取れるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関、協力医療機関、ご家族様との連絡を取り合い、退院前には医療機関に連絡をし、退院後の指示を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期への対応については、事業所の指針を基に入居時に説明している。看取りは行っていないので重度化した場合は、法人内の居宅介護支援事業所などから情報を提供し、家族の自己決定を支援している。	「重度化した場合における対応に係る指針」に、対応が難しい内容を具体的に明記し、入居時の説明で同意を得ている。食事の形態を工夫し可能な限りケアを行っている。医療行為が必要な時は家族と方針を話し合い、意向に沿って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について、マニュアルを整備しており、すぐに目を通せることができるよう職員室に保管している。 フローチャートによる手順表を貼って対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中と夜間を想定して法人全体での火災訓練を実施しており、その都度消防署員から具体的な助言を得ている。また、災害時に備え、水、レトルト米、缶詰等を備蓄している。	消防署指導の下、法人事業所合同で避難訓練を実施している。高台にある施設なので、訓練に住民の参加が難しい状況にある。法人間の協力体制で災害に備えており、利用者の状態に合わせて、地震マニュアルの見直しも検討している。	地震時の各場面を想定し、避難時に必要な方法、ケア面での対応、危険場所の確認などを職員間で話し合い、マニュアルの見直しを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報・プライバシーの研修を実施し、入居者様主体の言葉掛けや対応をし、敬意を払って接している。記録等は、職員室に保管し、個人情報の取り扱いに留意している。	「認知症ケアの向上」を目標に掲げてコミュニケーションセミナーなどを開催し、適切な声かけや対応について学びを深めている。個人的な事は、居室で話をするように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替え、入浴、レクリエーションなど生活の中の希望を大切にしている。外食・お好み献立・誕生日のケーキは、食べたいものを選んでもらい、自己決定できるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時刻・食事にかかる時間、入浴の希望は可能な限り、希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品会社の協力のもと、化粧療法を実施。その後、定期的に化粧をされるようになった方もいる。入居者様の気持ちを大切に、出来ない部分を支援することでおしゃれ心を忘れないようにしている。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別の好みに応じられるように「お好み献立」「パン献立」の提供。準備、調理、盛り付け、配膳、食後の片付け、食事に関する事全般をできることをそれぞれの役割として共に行えるようにしている。参加型の手作りおやつの日を設け、楽しめるように工夫をしている。	月1回の「お好み献立」は、利用者の希望を聞きながら、山菜の天ぷらなど旬の食材を取り入れた献立を考えて利用者と一緒に買い物に出かけている。外食を兼ねた「外出レク」で、寿司やランチメニューを楽しんでいる。かぼちゃ団子やプリンアラモードなど、おやつと一緒に作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、法人の管理栄養士が献立表を作り、栄養・カロリーバランスのとれた食事となっている。水分は、1日1500ccを目安に確保。水分・食事量共に個別に記録している。又特別な食事制限に対しても、出来る範囲で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の力量に応じて、声掛け・介助を毎食後行っている。異常が見られた場合、歯科医の受診に繋げ、歯科衛生士より、口腔ケアの指導を受け、ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、日中・夜間のパターンを把握してトイレで排泄できるように、また失敗ないように声掛けと介助をしている。	仕草などから排泄の意向を把握し、さりげなくトイレに誘導して失敗を減らすように工夫している。可能な限り昼夜共にトイレでの排泄を支援して、おむつなどの使用頻度が減少できるように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因と心身への影響を理解し、食事の内容、水分摂取、運動量を考慮している。排便に関して、必要時にはかかりつけ医に相談をし、薬の調整をしてもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、入所者様の希望に応じて午前と午後のどちらかも可能で、職員は入浴剤の使用や話しかけなどによって気持ちよく過ごせるように努めている。入浴を嫌がる入居者様には無理強いせず、日時の変更や清拭などで身体の清潔を保つようにしている。	希望に沿った時間帯で、週2回の入浴を支援している。利用者ごとに浴槽のお湯を交換し、好みのシャンプーや入浴剤などを使用しながら入浴が楽しめるように工夫している。日曜日は、同法人が運営するデイサービスの大浴場に出かけて数人で入浴を楽しむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やして安眠できるようにしている。傾眠や疲れが見られる時、入浴後など必要時、ベット臥床を促し、休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容を理解をし、与薬表・頓服用と薬表を作成し、医師の指示通り、服薬出来るようにしている。副作用など、薬による変化が見られる時には、かかりつけ医へ連絡をし、指示に従っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション委員がレクリエーションカレンダーを作成をし、笑顔と楽しみが増えるように支援をしている。天候不良でベランダでの昼食はできなかったが、お茶を飲む事はできた。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	立地条件から個別の希望に沿った外出が困難である。冬期以外は、ゴミ出しの延長で周りを散歩。月3回、職員とマンツーマンで手稲区内の店へショッピングに出かけている。御家族様の援助で定期的に外出されている方もいる。	「バスレク」で、前田森林公園や白い恋人パークに出かけたり、冬季は雪まつりを車窓から見学している。ベランダに出て、花に水やりをしたりお茶を楽しむこともあるが、日常的に建物外に出る機会が少ないので、敷地を活用して外気浴や日光浴を取り入れられるような工夫を考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的には、グループホームで預かっているが、希望される方には、所持してもらい、金銭の授受に関わることができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、電話をかけること、受けることの支援をしている。手紙を出したい方には、援助をしている。今年度からは文(ふみ)の日を設定し、ご家族や知人に手紙やはがきを出してもらおうよう働きかけていく予定である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットの中央に台所があり、食事の準備や後片付けの音、匂いを感じる事ができる。年中行事の時には、飾り付けをし、季節感を取り入れている。安全で居心地の良く生活できるように整理整頓を心がけている。	屋内は広々とした造りで、清掃が行き届いている。居間に面した大きな窓から、ベランダを利用したガーデニングの花々を楽しむことができる。居間やトイレなどの共用空間にさりげなく観葉植物や花が飾られており、家庭的な温もりが感じられる。居間の本棚に、アルバムや多くの本を置いているユニットもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時の入居者様の状態に合わせ、独りで寛げる場所、外を眺め、気の合う仲間と過ごせる場所が選べるように空間作りの工夫に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者様の思い出の品物や写真、使い慣れた家具、趣味の物を持ち込んでいただけるように家族に協力してもらい、職員は整理整頓、掃除をして居心地良く過ごせるようにしている。	大きなクローゼットのある広々とした居室に、使い慣れた鏡台やソファなどを持ち込んで居心地よく過ごせるように工夫している。壁に家族や旅行の写真、習字などの作品が飾られている。好きなコーヒーカップでコーヒーを楽しんでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は、バリアフリーにし、要所要所には、手摺りを取り付けて、安全かつ自立した生活を送れるように配慮している。居室やトイレ、風呂には分かり易い表示をして混乱を防いでいる。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400010		
法人名	社会福祉法人 手稲ロータス会		
事業所名	グループホーム 手稲ゆうゆう もみじ		
所在地	札幌市手稲区稲穂5条2丁目6番5号		
自己評価作成日	平成28年4月28日	評価結果市町村受理日	平成28年6月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>① 月1回の全体での外出行事や、月3回の個別外出を支援している。</p> <p>② レクリエーション委員会を立ち上げ、入居者様に応じたプログラム提供を図り、日常生活でのリハビリの拡大に努めている。</p> <p>③ 社会福祉法人として、併設の特別養護老人ホーム、老人保健施設と24時間体制で医療連携をしている。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0190400010-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年5月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もみじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人共通の運営理念とホーム独自の理念をエレベーターホールや各ユニット、職員室に掲示し、各職員が、理念を把握しそれを実践に繋げるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の夏祭りでは、大々的に地域の方への参加を呼びかけ、地域の方々とのふれあいに繋がっている。また、近隣の小学生や、高校生、ボランティアの慰問や、手稲区のふれあいフェスティバルの見学も受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の方に日々行っている支援の報告を行い認知症への理解をもらっている。また、法人全体として、包括支援センターが中心となり、認知症サポーター研修をH27年に開催し、予防への取り組みを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事や、事業計画・報告、事故及びヒヤリハットの内容について公表している。行事報告については、取組がわかりやすいように、写真を使用することで評価しやすいよう工夫しサービスの向上に努めている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	手稲区生活保護課職員とは、日頃から連携をとり協力関係を築いている。市や区の管理者連絡会議に参加して、情報交換し、ケアに活かしている。また、市のアンケート調査に回答し実情を報告している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルがあり、職員は指定基準を理解し、身体拘束をしないケアを実践している。法人全体での研修をH26年10月に実施し、身体拘束廃止への知識、理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を北海道高齢者虐待防止推進研修会に参加させ、職員全体に周知し、防止を図る為に、身体拘束委員会が中心に年1回内部研修を行っている。また、職員室に虐待防止についてのリーフレット等を掲示して虐待へのより深い、知識の向上に努めている。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もみじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、利用も相談を受けた事例はないが、制度についての理解を深め、必要時活用し支援できるよう努めて行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と共に重要事項も一緒に時間をかけて、説明し、事業所のケアに関する考え方や取組等の説明も行っている。また、入居してからも不明な点がないか確認させてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見や要望を表す機会を設けている。2年に1回の割合でご家族様へのアンケートを実施し、意見や、不安を探り、サービスの質の向上に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、意見や提案を聞く機会としている。また、随時にユニット会議を開催して職員の要望や意見を聞き反映できるよう努めている。また、代表者と管理者、事務長による運営会議が月1回実施しており、職員の意見や提案等を反映する場となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に代表者との運営会議があり、その場を通じて、運営等に係る情報を報告している。職員の仕事ぶりや、勤務状況を把握して、給与・賞与に反映している。外部研修は、勤務扱とし、費用も法人が負担して向上心がもてるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で外部研修参加予定表を計画し、実施している。職員一人ひとりに合わせた内容の研修に参加し、内部研修時に、他の職員に研修内容を伝達している。平成27年度は、各テーマに沿った問題集を配布し、家庭学習の一環とした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区で行われる連絡会に参加し、悩みや事故対応等について意見交換、認知症の事例検討を行い、ケアに活かしている。また、近隣のグループホームを見学したり、管理者同志の交流を通じてサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もみじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と計画作成者が面談を行い、御本人様の状況を理解するよう努めている。全職員が入居前の利用者様の生活状況を把握できるよう情報を周知して、御本人様の不安を軽減し、早くに信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談時、グループホーム見学時等、利用開始前には、管理者と計画作成担当者をご家族として困っていることや要望等、気軽に相談できる環境づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様や、御家族様の思いや状況を確認し、改善に向けた支援を行っている。おもに、病気に関することが多く、歯科往診や、訪問リハビリ、訪問診療への変更等の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様の出来ることは、手伝ってもらい、できない事はさりげなく支援し、安心と喜びが送れるように、お互いが助け合い暮らしていく姿勢で生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪された時は、日々の生活や体調の変化、行事で行った事などを報告させていただき、面会時には居室でゆっくり過ごしていただけるようお茶を提供している。また、気軽に話せる雰囲気でご本人様を支えていく関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	もと近所の友人の訪問があったり、電話がかかってきて会話している。以前利用していたデイサービスの利用者が訪ねてきて、なじみの関係の継続を支援している。別ユニットに、ご家族様の要望にて妹様が入居し、ご本人様達も昔話をして喜ばれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や入居者様同士の関係を日頃から把握し、日々の活動やレクで触れ合う時間を提供し、より良い関係が築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もみじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、利用者様やご家族様による相談事があれば、気軽に相談できるような関係作りに取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で入居者様の希望や意向を把握するようにしている。表現の少ない方についてはご家族に伺って、カンファレンスや職員会議で情報交換している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様に依頼してセンター方式に情報を記入してもらったり、御本人様に尋ねて、入居までの暮らしの把握に努めている。また、居宅介護支援事業所や医療機関などから情報を収集し、ご本人様の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り、連絡ノート等で職員全員がご本人様の心身状態、有する力等の現状を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは3ヶ月毎に定期見直しを実施し、入居者様毎の担当職員による評価を基に、ご家族様、ご本人様からも意見を集約し、カンファレンスで検討して、現状に即したプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の状態、体調の変化や行動を個々に事業所独自の介護記録や連絡ノートに記載し、申し送り等で職員間で情報を共有し、実践しながら介護計画の見直しに活かしている。また、介護プランの実施や、医療記録は色を変えて工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設があることで、医務との24時間連携、日曜日のデーサービスの浴室使用、他事業所への慰問の催し物・出張買い物サービスへの参加など、事業所の持つ機能を生かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して、意見交換をする機会を設けたり、社会福祉協議会などへのボランティア受入れ登録など、地域資源の把握に努めている。現在は習字と傾聴ボランティアを定期的に受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医は継続している。糖尿や心臓病の方は専門医を受診してもらい、変化に応じて医師と連携をとって、適切な医療が受けられるようにしている。個別に訪問診療や訪問歯科往診を利用している。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もみじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師によって、週1回以上健康チェックをして医療連携を図り、医療的な部分の相談をし、助言をもらっている。 個々に訪問診療を受けている入居者様に体調の変化があった際は、訪問看護婦に連絡・相談し適切な対応が取れるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関、協力医療機関、ご家族との連絡を取り合い、退院前には医療機関に連絡をし、退院後の指示を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期への対応については、事業所の指針を基に入居時に説明している。看取りは行っていないので重度化した場合は、法人内の居宅介護支援事業所などから情報を提供し、家族の自己決定を支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について、マニュアルを整備しており、すぐに目を通せることができるよう職員室に保管している。 フローチャートによる手順表を貼って対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中と夜間を想定して法人全体での火災訓練を実施しており、その都度消防署員から具体的な助言を得ている。また、災害時に備え、水、レトルト米、缶詰等備蓄している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様本人の気持ちを汲み取り、プライバシーを損ねないよう、言葉かけなどに細心の注意をはらい、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけではなく、表情な態度からも思いをくみ取り、否定的な言葉や態度に注意しながら、ご本人の思いや希望を表に出せる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時刻・食事にかかる時間、入浴の希望など、入居者様一人ひとりのペースに沿って、ご本人様の気持ちを尊重しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に買い物に行き、化粧品や好みの衣類を購入したり、定期的に、訪問理美容を依頼し、好みに合わせて、髪の毛をカット、パーマ、カラーをしてもらっている。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もみじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備、食材切りや、食器洗い・拭きなどを職員と一緒にやっている。毎月「お好み献立」「パン献立」「手作りおやつ」の日を設け、職員と一緒にかぼちゃ団子作り等を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を一人ひとりチェック表に記録しており、全職員が把握している。食事は入居者の状態に応じて、お粥、トロミ食、きざみ食等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行ってもらい、口腔状態を観察している。また、訪問歯科を定期的に受け、義歯の調整や、歯の治療を行っている。就寝前には必ず義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々のパターンを把握し、一人ひとりの心身の状況や、個々のサインを見逃さないようにして声かけにてトイレ誘導を行っている。また、できることは行ってもらい、自立支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の日課で体操やラジオ体操を行ったり、階段昇降運動や、廊下での歩行訓練、散歩等で身体を動かす機会を設けている。また、飲食物の工夫やお腹をさする等、便秘の改善に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入浴が楽しめるよう、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。入浴拒否傾向の入居者様には、声かけの工夫やご家族の協力を仰ぐなど工夫した支援を行い、清潔保持に心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣、ご本人様の希望や体調に合わせて、休息できるように努めている。日中ベッドで横になったり、フロアで傾眠など、テレビの音量や、環境にも配慮しながら見守りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容を把握し、理解のうえと薬表を作成して医師の指示通り服薬できるように支援している。副作用が心配な場合観察を強化し医師に繋げている。薬の変更があった場合等は、連絡ノートに記載し、毎日の申し送り確認し、職員全体で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる事を見つけ、家事等の役割が持てるように支援している。レクリエーション担当職員を配置して日々の生活での張り合いや、喜びがもてるように、レクリエーションのプログラムを工夫して提供している。買い物外出日を設け気分転換を図っている。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もみじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期は掃除後のごみ捨ての延長で散歩したり、冬季は併設施設内を散歩している。又、毎月バスレクに出かけている。月に数回職員1人に入居者1~2人で手稲区内の店にショッピングやドライブに出かけている。ご家族様にご協力を頂き、外食支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的にはグループホームで預かっているが、御家族様・御本人様が希望される方には所持してもらいご自分で支払いが出来る方には外出時に支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御親族や知人が遠方な方との電話でのやりとりは、大事な機会であるため、希望する場合は時間を考慮した上でご使用、又は取次している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット中央に台所があり、食事の準備の音や匂いを感じることが出来る。フローアは、四季を感じられるように色を重視して、飾り付けやしつらえを行っている。リビングの壁には、入居者様が作った作品や、思い出の写真が飾ってある。入居者様から見えるようにベランダには鉢植えをおいて、季節感を味わえる環境作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも、椅子を設置し、窓からの景色を眺めてもらって思い思いに過ごしてもらっている。ホールでのソファの座る位置がそれぞれ決まっており、ご本人にとって一番安心できる場所になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人様が安全で、安心して頂けるよう馴染みの有る家具を置いたり、職員の手作りのパースデイカードやご本人様が塗られた塗り絵や作品、思い出の写真などを飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーにし、要所要所には手摺を取り付けて、安全かつ自立した生活を送れるように配慮している。居室やトイレ、風呂には分かり易い表示をして混乱を防いでいる。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 手稲ゆうゆう

作成日：平成 28年 6月 13日

市町村受理日：平成 28年 6月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	会議の内容が報告事項にとどまっており、参加者も固定している。 会議内容の工夫や出席者の拡大が必要である。	会議に関心やより多くの参加が得られるよう、ご家族が来訪時に参加への声かけを行うとともに、会議内容を工夫し、参加率の向上及び、会議の活性化を図る。	ミニ勉強会等計画的に会議のテーマを設定する。 早い段階でご家族に案内を送付する。 ご家族の来訪時に、口頭で説明し、会議への理解を深めていく。 運営推進会議とタイアップした行事計画を立案する。	1年
2	35	法人事業合同での避難訓練を実施しているが、地震等の自然災害に応じたマニュアルの内容が不十分である。 利用者の状態、自然災害の場面に応じたマニュアルの見直しが必要である。	地震災害等を想定して、事業者内の危険個所の確認や利用者の状態に応じた事例の対応について、職員間で話し合い、現状に応じたマニュアルの見直しを図る。	地震災害について、全職員でいろいろなケース場面に 応じた対応を検討する。 危険個所については、随時確認し合い、改善する箇所は早急に対応していく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。